自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をホール出入口に掲げて職員が目に触れやすいようにしている。また、新入職研修時に研修資料に理念を載せて学んでいる。	基本理念に加え地域密着型サービス独自の理念を掲示し、支援の拠り所として常に立ち戻る原点として大切にしている。新人職員研修では、介護職員オリエンテーション資料に理念を明記し、入職初期から理解促進を図っている。玄関ホールとユニット入口に基本理念と地域密着型理念を掲示し、尊厳の保持を言葉だけでなく実践へと理解を深めている。併せて身体拘束・虐待防止、災害・感染症対応等のBCP研修を実施し、理念に基づく支援体制を整えている。	新人入職研修時は理念を学ぶ機会が設けられていますが、入職後も継続して理念に触れられるよう、研修等で学び、より浸透できるような機会を設けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年10月の秋祭りには、地域の方が駐車場に来られて神輿を練ってくださり入居者全員で迎えた。また、今年8月にも地域のボランティアの方を招いてギターの演奏会を行った。懐かしい曲を演奏してくださり、とても盛り上がったので、今後も継続できるよう企画を考えたい。	地域行事への参加や住民との関りを積極的に取り組まれている。秋祭りでは入居者全員で来訪者を迎え、地域とのつながりを深めている。夏季には運営推進会議で紹介を受けたギターボランティアによる演奏会を実施し、入居者の感動や次回への期待が寄せられた。これらの取組により、地域に根差した関係づくりが進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて見学・相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施している。ご家族、地域包括支援センター職員の方、地域の方、近隣のグループホーム管理者の方、訪問看護ステーションの方にご参加いただき開催している。入退居の状況、施設内の感染症の状況、ヒヤリハットや事故報告、職員研修実施の報告、行事の報告をしている。出された意見や要望、助言などは施設の運営に反映出来るよう努めている。	令和8年3月・5月・7月開催の議事録を確認した。家族、以前から参加されている地域住民、他の事業所、入居者など多様な参加者が出席し、事業所の運営状況について意見交換が行われていた。会議は玄関ホールで開催され、ヒヤリ・事故については、適正化委員会で分析し、再発防止に向けた検討内容と対応方針が報告されていた。事故報告は職員へ回覧により周知し、チームとして共通理解を深めている。家族には会議の議事録で内容を伝え、理解促進に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス制度に関する相談事や疑問がある時は、行政に相談している。生活保護受給者の方の担当ケースワーカーにも、日々の生活の様子を伝えている。	市町村担当者との連絡は主にメールで行い、急ぎの案件については電話により迅速に回答を得ている。運営基準に関する照会には即時に返答があり、制度運用の確認が円滑に進められている。生活保護受給者への支援に関しては、ケースワーカーと適宜相談を行い、必要な調整を図っている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束研修を行い、レポートを提出し理解を深めるよう努めている。玄関の扉は、日中は開錠しているが、夜間は防犯の為施錠している。	身体拘束適正化に関する研修を実施し、身体拘束の具体例を用いたロールプレイを通じて、不適切ケアを防ぐための気づきを深めている。適正化委員会（6月22日・8月22日開催）の議事録では、事故報告の分析や指針の見直しが行われた。令和8年6月15日付で指針の更新が確認された。これらの取組により、身体拘束を行わないケアの実践が継続的に強化されている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待研修を行い、レポートを提出し、理解を深めるよう努めている。	身体的虐待は認められないものの、個々のケア内容について常に検討を行い、プライバシーへの配慮を含めて適切性を確認している。令和8年2月18日「怒りと高齢者虐待の関係を理解する」をテーマとしたアンガーマネジメント研修を実施し、ストレス回避や感情コントロールの重要性を学び、全職員が参加した。これらの取組により、虐待防止への意識と実践が継続的に強化されている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士の方を施設に招いて、成年後見制度を学ぶ研修を行った。成年後見制度の概要や種類、制度の対象者、成年後見人の仕事、成年後見制度を利用するメリット・デメリットを学んだ。	事業所では、権利擁護の理解促進を目的に、BPSDや認知症ケアに関する研修を継続して実施している。令和8年2月には成年後見制度の基礎を学ぶ研修を行い、「制度が介護施設とどのように関わるのか」について法律の専門家による講師から具体的な説明を受け職員とともに理解を深めた。参加者からは「資料研修より説明が聞けて分かりやすかった」と制度活用に向けた学習機会として有効であったとの意見が多く出ていた。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、理解や納得をして頂けるよう時間をかけて説明をしている。後日、不安な事や質問があった場合は連絡下さるよう伝えている。	令和8年度は2名が入居し、契約時には医療対応や退所要件等を丁寧に説明している。 入居後も不安や疑問を把握するため聞き取りを継続し、医療に関する相談が多いことから体制や対応方針を明確に伝えている。歯科往診は好評であり、誤嚥性肺炎のリスク説明や同意取得も適切に行い、看取り・重度化への対応方針を詳細に説明して理解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望は、日常会話の中で聞き取りを行い、ケアへの反映に努めている。ご家族とは、面会時や担当者会議で担当した職員、ケアマネージャーが中心になって意見や要望を聞いて日々のケアに反映させている。	家族からの意見は気軽に伝えられるよう配慮し、個々の状況や立場に応じて助言を行っている。ケアマネジャーによる定期面談で得た要望は職員間で共有し、対応を検討している。人員配置や介護負担により意思決定が難しい場面もあるが、夕方の振り返りで課題を整理し、各フロアが「管理日誌」に問題点を記載する仕組みを確立しており、これが有効な媒介となって運営改善につながっている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々のケアの中で職員の意見を聞くようにしている。法人理事は、毎月のミーティングに参加して、職員の意見を聞く機会を設けている。	事業所では、家族から見た際に疑問が生じないよう、職員間の情報共有のあり方に特に留意している。法人理事が毎月のフロアミーティングに参加し、さまざまな職員の声を受けとめられるよう意見を聞ける体制づくりを進めている。日常的な相談については、管理者がその都度聞き取りを行い、職員の意見を運営に反映している。実践者研修及び実務者研修等の応援をしてくれている。職員の意見を把握し、働きやすさ、スキルアップなど改善に向けた取組が進められていた。	働きやすさ向上や職員の声を運営に生かすためにも、個別面談を計画的に進める体制づくりを検討してみましょう。もう一点は、さまざまな職員の声を受けとめられるよう、会議の進め方についても見直し検討を進めていけるとよいでしょう。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員の勤務状況を把握して、職場環境・条件の整備に努めている。 管理者以外の職員にも役割分担がされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの研修の機会を設けて、実際の事例でグループディスカッションを行った。また、年間スケジュールで研修を行い、現在動画配信研修を受講して理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とはお互いの運営推進会議出席時に意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後はご本人の意向をこまめに伺うように努めている。入居前にご本人のみでなく関わっておられるご家族やケアマネージャー、介護担当者の方々にもお話を伺い、ご本人が不安に感じる事がないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活歴、こだわり、性格を詳しく伺うように努めている。また、ご家族が困っていることを話せる環境作りをし、入居後の意向や不安についても伺っている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を確認し、その時に必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を提供するのでなく、利用者さまとの生活を共にし、そばにいてできないことにそっと手を添える事が出来るような関係を心掛けている。また基本理念に基づき、利用者様が安心して暮らせるように尊敬を持ちながら共に暮らしを行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、毎月お手紙と写真を交互に郵送して生活の様子を伝えている。また、面会時や電話でもご本人の生活の様子を伝えている。ご家族の気持ちに配慮しながら、ご本人とご家族の関係性が途切れてしまわないように心掛けている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や昔馴染みのご友人が面会に来られている。また、ご家族と電話で話す機会があった際には、面会に来ていただくようお声がけをしている。	家族の同意を得て地域の知人や友人、かつてのサークル仲間が訪れることもある。家族の来訪には個々の事情に応じた差があるが、重度化の段階で来訪が増える例もあり、施設長はこれを家族との絆が深まる機会と捉えている。家族と外食に出かける利用者もおり、　馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性や関係性を考えてケアをしている。プライバシーに配慮をしつつ、部屋に閉じこもったり孤独にならないように声かけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去以外のサービス終了ケースが1年間ないが、ご家族様から相談があった場合は、お話を伺って支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスやミーティング、また1日の振り返りをしながら、個人の希望にそえるよう職員が集まり、話し合いをしている。意思表示が難しいご利用者は、ご本人の様子を見て、思いについて考える様にしている。	入居時は面談を行い、本人への意向確認を重視している。とりとめのない話であっても時間をかけ対応する。家族を含めそれぞれの思いを傾聴をする取り組みを実施している。管理日誌にて申し送りがおこなわれ、変化のある入居者は聞き取りを行うが回答し易い質問を重ね支援経過に記載をする。デリケートな報告に関しては計画作成者・施設長などで検討する。職員周知のため書面等の回覧を行う。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活用品を居室に取り入れている。また、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。カンファレンスシートや生活歴情報などを参考に、ご利用者にどのような思い出があるかをご家族やご利用者との会話を通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活用品を居室に取り入れている。また個人の今やりたいことをできるだけ止めず、危険が無いように寄り添い、一人一人穏やかに過ごせるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向は、日々の生活の中で職員が聞くようにしている。ご家族の意向は、電話や面会時、更に担当者会議時に職員やケアマネージャーが聞いている。担当職員は、毎月ご本人のアセスメントを行い、カンファレンス時に他の職員へ報告をし、情報共有を行っている。ケアマネージャーは、それぞれの意見、意向をまとめて介護計画を作成している。	面談記録及び介護計画に本人・家族の意向が記載されていた。その内容に基づいたプランニングを実施するために面会の予約をして頂き、家族にも意向確認する。例として「不安が大きい方に対しての対応」では、関係医療機関、家族、介護員、計画作成者等の意見を確認し、偽薬対応を行い不安が解消されたケースなどがある。課題はフロアミーティング・全体ミーティング等を実施し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを毎月実施し、個別ケアシートを作成し職員全員へ周知しケアに活かしている。個別の経過記録は時間ごとに記入者を分けて記入し、気になった点も随時記録をし今後の方針や見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能が低下しておられる方には、福祉用具専門相談員と相談し、エアマットや人感チャイムを導入して、ご利用者が安全で安心して過ごせるように努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	岩岡まつりの祭事への参加、地元の米店との取引、2ヶ月に1回訪問理容師、訪問美容師に来ていただいている。また、ボランティアの方と連携しイベントを企画している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医が週1回訪問診療に来て、入居者の健康状態を把握し、治療や投薬を行っている。また、必要に応じて病院紹介など早期治療のサポートをしている。個別に他のかかりつけ医を希望される方は別途受診していただいている。	入居の際に、かかりつけ医等の確認を行い、現在の通院状況から希望される医療機関等の確認を行う。それらを初回面接記録・重要事項説明書・利用契約書等、契約時選択肢を持って医療機関や訪問看護の利用方法などの説明を受け決定している。他機関への通院は基本的には家族に付き添いを依頼しているため、当施設のかかりつけ医を希望される方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護ステーションと連携している。月4回の訪問看護師による健康チェック時に、職員が気づいたことを看護師に伝えて相談をしている。体調不良の方がいれば、24時間対応の電話で看護師と連絡を取り合い、ご利用者の健康状態の維持に努めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に情報提供書を作成している。定期的な電話連絡で、症状の確認を行い、退院に向けた情報交換に努めている。	入院時連携は、介護支援専門員が連携シートにより情報提供を行う。不在の場合は、管理者等が代行する。入院の際、地域連携室に、速やかに適切な治療が受けられるように連携しいている。退院時はカンファレンスに参加し、入居者・家族が不安なく安定した状態で退院できるよう状況に合わせて退院調整を行う。施設介護員への情報提供も早めに行い、ケア計画を作成し周知を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、急変した場合や終末期について説明をし、希望を聞いている。さらに年1回、緊急事態が発生した場合の事前確認書（ACP）で急変した場合や終末期についてご家族の意向を確認している。	契約書・重要事項説明書等に項目内容が記載されていた。重度化・終末期に関する、質問はとてもデリケートであり、その説明を大切な機会となると考えている。そのため、施設ではACPに係る書面を、年1回面談を通じて、急変等の説明を含め確認・同意を実施している。同意の書面を目視した。	既に丁寧な面談による説明が行われています。今後は、同時に状態等が退所の理由に繋がることもあるため、退所の要件について文書化されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、適切に医療につなげられるようフローチャートを活用出来るよう努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災について、年2回消防訓練を実施しており、通報ベルの操作方法やご利用者と一緒に戸外へ避難をしたり、水消火器を使っての消火訓練を行っている。水害については、階段を使用して2階へご利用者と一緒に避難する訓練を行った。地震については、手作り担架を作って避難できるか検証を行った。	消防関係ファイルより、年2回実施している訓練結果を確認した。自然災害・感染症関連のBCPも確認した。備蓄は、2階・1階に各職員が目視できるように消費期限等を貼り、周知を心掛けている。災害に係る研修は、研修記録等より令和8年5月自然災害、7月感染症に対して研修・訓練・委員会を実施していることを確認した。 避難経路も目視を行った。	令和8年7月消防署と連携し、スプリンクラーの止め方の周知を職員へ行っています。良い取り組みだと思います。継続して、家族様や地域の皆様を踏まえた防災訓練等に取り組まれると更に良いと思います。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助時といった際には特に気を配り、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。	入居者の尊厳を護るよう、定期的に研修を開催している。虐待防止における研修に不適切ケア（トイレのドア、脱衣場の扉等を開放のままケア）の課題について、事例を通し検討する。日々の声掛けに対し注意を喚起、排泄に関しては特にマイナスイメージを外せるよう、言葉かけを模索した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定できるように支援している。またやりたいことがあれば、話を伺い、出来る限り思いに沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアの為に各利用者の希望を伺っている。また、利用者のADLに合わせてベランダに洗濯物を干しに出たり、洗濯物たたみなど支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の季節整理を実施している。朝に限らず髪や服を整えたり、着る服を一緒に考えている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや台拭きを職員と一緒に行っている。食事後には、ご自分のお膳をキッチンまで運んでくださる方もある。誕生日にはケーキを一緒に手作りして楽しんでいる。	昼食時間を拝見させてもらうと、入居者自身が下膳をされていたり、ゆっくりした時間の中で昼食を摂られている方もいた。誕生日の当月にケーキ作りや、ケーキを選んで頂き購入するというイベントがある。カタログを見ながら、「これを食べたいね」という意向を聞き取り、希望者は家族と一緒に外食をすることもできる。	家族様のご不安を踏まえ、食事量や形態の状況について再確認し、安心していただけるような対応を考えてみましょう。また、秋祭りなどの行事にご参加いただくことで、日常の様子に触れていただける良い機会になると思います。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師による制限がない限り、水分を十分にとって頂けるよう水分量の記録を確認しながら提供している。また、一人一人の状態にあった食事形態、食事量を考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の治療や、週1回歯科衛生士が来られ、ケアに伴う指示に従い、毎食後ご本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を排泄チェック表に記録し、失敗せずにトイレに行けるよう一定の間隔で声かけを行い、出来る限り布パンツを着用出来る様に支援している。またパッドやオムツのコスト面についても考慮している。	トイレは3か所にあり、パット交換やリハビリパンツの交換が速やかにできるようにトイレにあるBOXの中に準備をし、介助時に一時的でも離れるリスクを回避している。排泄パターンを排泄記録から状況に合わせた声掛けをすることで、この時間は「大丈夫」と言う時間をみつけることで交換頻度の縮小に至り、本人の心理的ストレスや経済的課題に対し、負担軽減に繋げている。	認知症ケアに関する研修等でも参加・報告書提出等の有無が書かれ取り組みが整っています。心理的負担や経済的な課題が軽減する取り組みを今後も継続していかれることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供量を増やしたり、移動回数を増やしたり、腹部マッサージや刺激になる体操を取り入れている。またかかりつけ医や訪問看護師と相談し、薬の調整を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の曜日や時間は決めているが、ご本人の意向に配慮し入浴している。洗身、洗髪、更衣は可能な範囲でご自身で行って頂き、自立支援を促している。	浴室は、手すりの設置があり、滑りにくい床面になっている。終了後は窓を開放し換気が行われていた。シャワーキャリーは2台あり、マタギができない場合は、シャワーでの対応をしている。基本入浴日は週2回、入居者の希望を確認しつつ、支援を実施している。拒否がある場合は、時間・曜日を変更したり、同性介助を行うように心がけ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣をできる範囲で継続できるよう配慮をしている。また、一定の時間を目安として就寝や起床の時間は定めているがご本人の希望に沿うように心掛けている。必要であれば、午後、お昼寝を勧めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の情報はその都度確認できるよう個人ファイルに保管している。処方に変更があった場合は体調変化がないか観察している。誤薬や薬の飲み忘れがないように、服薬チェック表を使って服薬の支援をしている。症状の変化があれば、かかりつけ医や訪問看護師に連絡をし指示を伺っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアのためにご本人の希望に応じて役割をもてるように配慮している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の水やりや洗濯物干しなど出来るだけ屋外へ出るようにしている。春には、毎年近所の公園へ花見に出かけている。ご家族と外出や外食を楽しんでこられる事もある。	2階ベランダに花壇があり、天気の良い日は外でプランターなど花の手入れをしている。 令和8年4月お花見に近くの公園にドライブに行かれた。今回は、3分の2の方が参加された。「我が家」という施設新聞にドライブの状況を写真で掲載していた。日常では、天候に合わせて、1階で洗濯物を干している。足の悪い方は座って洗濯物たたみなどをおこなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のお金の管理は、盗難や紛失の恐れがあるため、所持や管理を支援する取り組みは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの要望があれば、電話口でご本人とお話をされている。2か月に一度の手紙でご本人の様子をお知らせしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に手作りした四季折々のオブジェや絵画を玄関やホールに飾り付け、季節を感じて頂けるようにしている。また、ホールにホワイトボードを設置し、利用者自身が当日の献立を書いて、食事への関心や楽しみを感じて頂いている。	1階・2階共に、入り口を入るとリビングが広がり入居者が自由に座っておられる。季節の絵手紙や作品が壁に飾られている。入居者が余暇活動として行ったものも掲示されている。　トイレ・洗濯室・畳の部屋などを拝見したが、明るさ、光彩、換気、臭気等に問題はない。 献立を入居者が書かれておられ、役割を持って記載されていることがわかった。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは広くとっている。ソファやテーブル席で利用者同士お話をしたり、TVを観たりしてくつろいでいる。また、個人で過ごせるよう離れた場所にソファを置いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の置き場所は、ご本人やご家族と相談しながら設置している。ご家族の写真やお好みの衣服を持ち込んで頂き、ご本人が安心して居心地よく過ごせるようにしている。	居室内は、整頓されており、基本的には本人・家族と相談をしながらレイアウトを決めている。転倒等の事故防止のために動線上には、コードなどの危険物はおかれていない。　現在、防炎カーテン・照明・ベッド・ポータブルトイレ（福祉用具関連）・洗面所・クローゼットは常設されている。本人の好みを反映できるように持ち込みは、危険物以外は問題ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かし、職員が一緒に行うことで安全にかつ力を活かした生活ができるように支援している。家事（洗濯干しやせんたくたたみ、洗い物など）ができる方は一緒に行っている。		